

**2016年3月期**

# **決算説明会**

**2016年5月16日**  
**戸田建設株式会社**

**本資料には、当社及び当社グループの将来についての計画、戦略、業績の予測に関する記述が含まれています。**

**これらの記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が予測したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。**

**そのため、様々な要因の変化により、実際の業績または展開は、記述されているものと異なる可能性があることをご承知おきください。**

# 本日の内容

## 1. 決算説明

- 管理本部長 鞠谷 祐士

## 2. 経営計画の進捗状況

- 代表取締役社長 今井 雅則

# 1. 決算説明

---

管理本部長 鞠谷 祐士

# 1-1. 決算概要

---

# 決算のポイント

## ■ 連結売上高 4,926億円 (前期比+17.2%)

： 当社における完成工事高が増加したことにより、前期比17.2%増加の4,926億円となりました。

## ■ 営業利益 216億円 (前期比+66.7%)

： 採算重視の受注方針の徹底等による完成工事総利益の向上が寄与し、営業利益は前期比66.7%増加の216億円となりました。

## ■ 建設受注高 (個別) 4,128億円 (前期比▲8.2%)

： 建築・土木ともに前期比ではマイナスとなったが、計画に対しては、土木が大型案件の受注により+15.0%上回ったため、+3.0%増の4,128億円となった。

# 決算概要

単位：億円	2015/3期	2016/3期			
		2016/2 予測	実績	前期比	予測との差異
連結売上高	4,203	4,960	4,926	17.2%	▲33
営業利益	129	191	216	66.7%	25
経常利益	148	210	237	60.1%	27
当期純利益	140	188	200	42.9%	12
建設受注高 (個別)	4,497	4,000	4,128	▲8.2%	128

# 主な受注工事

	発注者	工事名
建築	永坂産業	永坂産業京橋ビル（京橋一丁目）
	新日鉄興和不動産	日鐵日本橋ビル
	桑名市総合医療センター	桑名市総合医療センター
	東洋大学	赤羽台キャンパス新校舎
	日本郵便	中国東部郵便処理施設
土木	鉄道・運輸機構	相鉄・東急直通線、綱島トンネル他
	宮城県	津谷川外河川災害復旧（その4）
	神戸市	西部処理場北系水処理施設

※敬称略、工事名は略称



# 1-2. 決算詳細説明

---

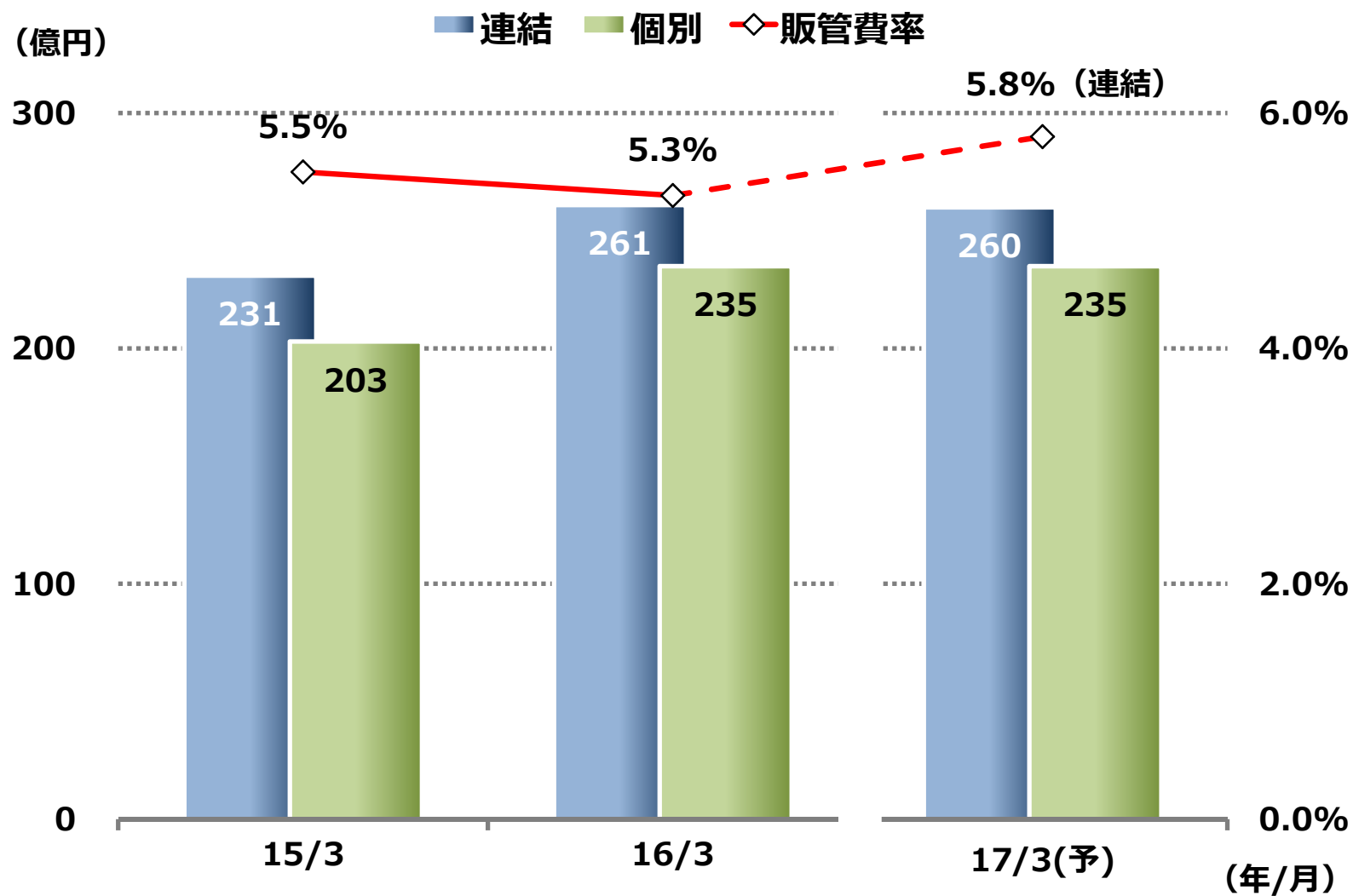
# 【連結】グループの状況

事業		国内子会社	海外子会社	15社
建設	建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>(株)アパックエンジニアリング</li> <li>千代田建工(株)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラジル戸田建設(株)</li> <li>戸田建設工程(上海)有限公司</li> <li>タイ戸田建設(株)</li> <li>ベトナム戸田建設(有)</li> <li>戸田フィリピン(株)</li> <li>ABTD(株)</li> </ul>	8社
	土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸田道路(株)</li> </ul>		1社
不動産		<ul style="list-style-type: none"> <li>戸田ビルパートナーズ(株)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカ戸田建設(株)</li> </ul>	2社
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>戸田ファイナンス(株)</li> <li>千代田スタッフサービス(株)</li> <li>東和観光開発(株)</li> <li>五島マーケティングウインドパワー(同)</li> </ul>		4社

## 【連結】グループ業績概況

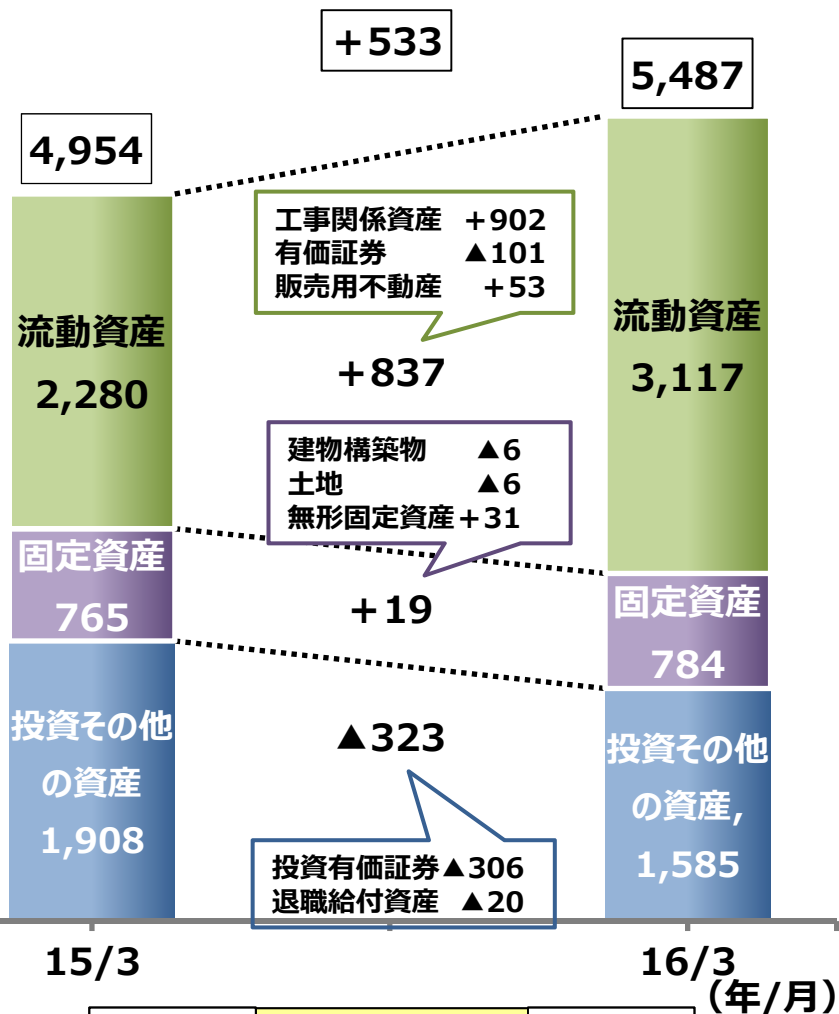
2016/3 単位：億円	戸田建設		子会社計		連結		連単 倍率
		%		%		%	
売上高	4,634		463		4,926		1.06
売上総利益	440	9.5	39	8.4	478	9.7	1.08
一般管理費	235		27		261		
営業利益	204	4.4	11	2.5	216	4.3	1.05
営業外収支	18		2		20		
経常利益	223	4.8	14	3.1	237	4.8	1.06
特別損益	▲10		▲3		▲7		
税引前当期純利益	212		10		229		
法人税等	24		2		27		
当期純利益	188	4.0	7	1.7	201	4.0	1.06
親会社株主に帰属する 当期純利益					200		

# 【連結】販管費の推移



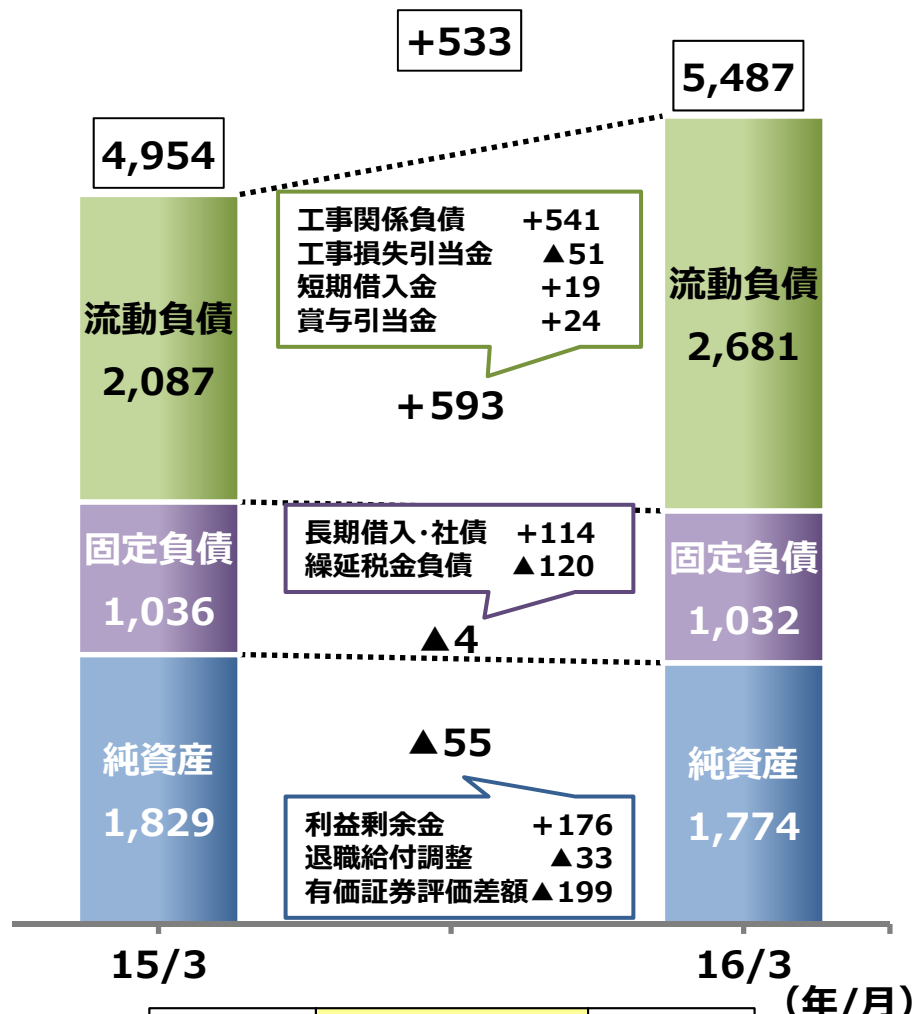
# 【連結】連結貸借対照表

## 資産の部 (億円)



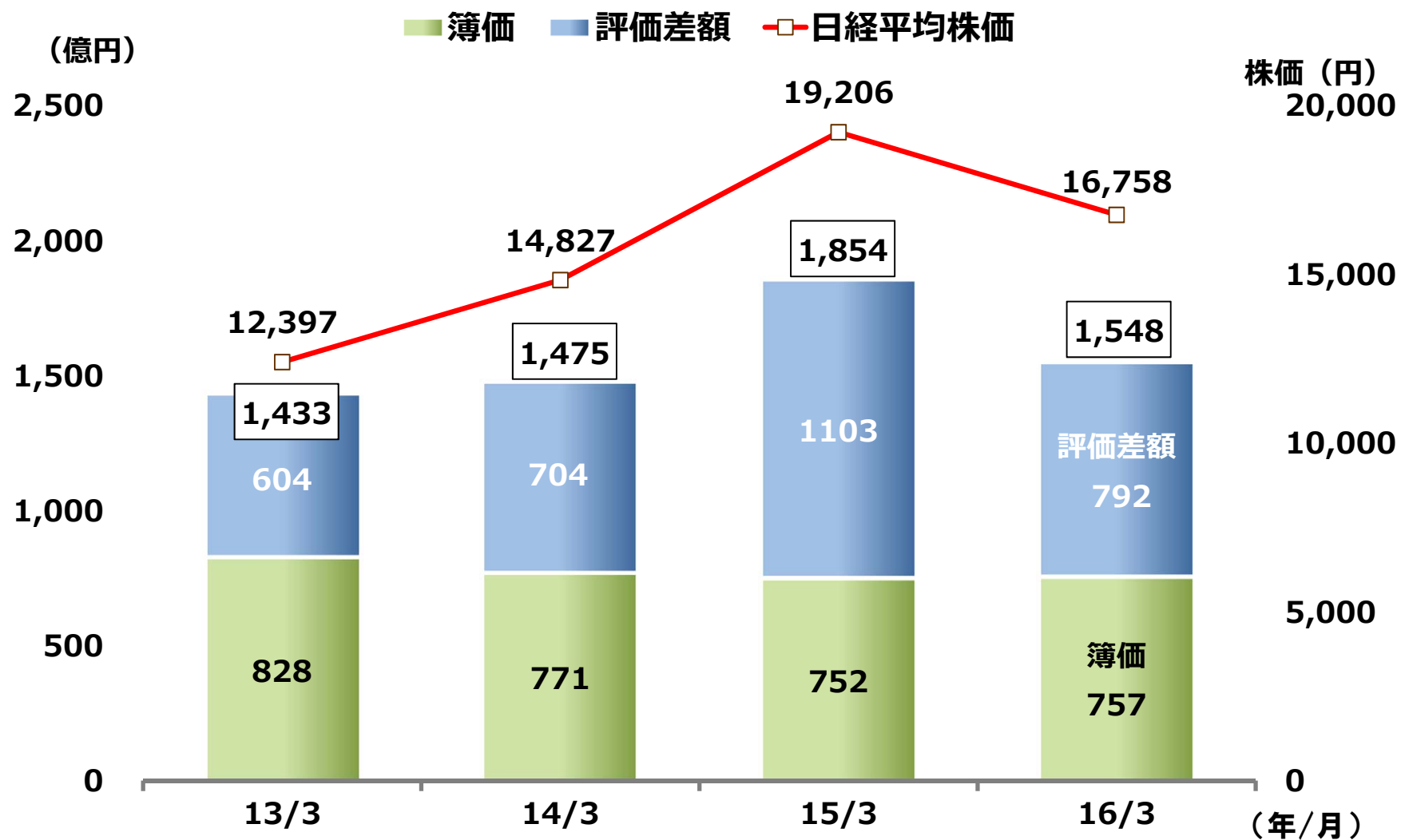
119.4% 流動比率 128.7%

## 負債・純資産の部 (億円)



36.4% 自己資本比率 31.9%

# 【連結】投資有価証券の推移

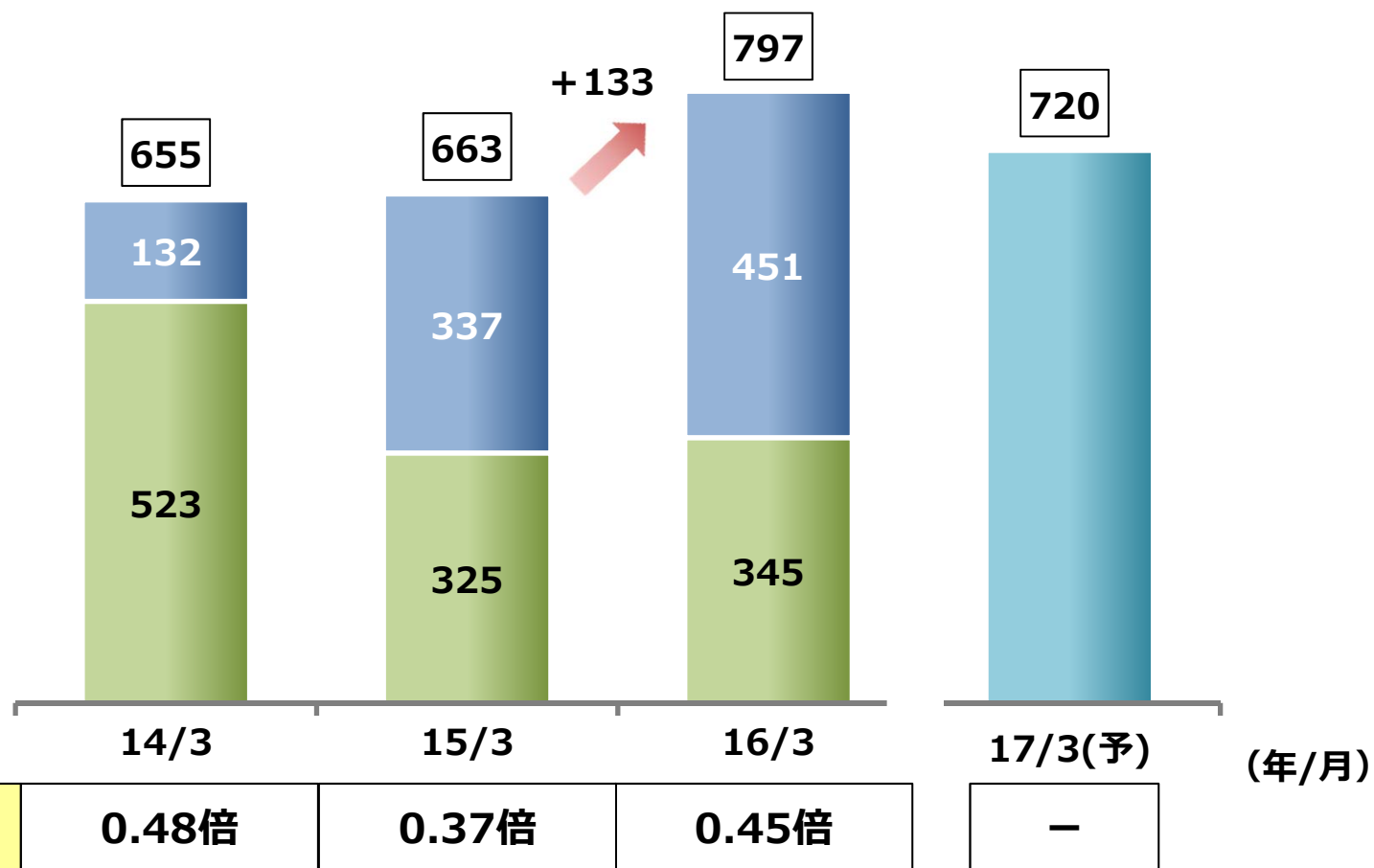


# 【連結】有利子負債の推移

■ 短期

■ 長期

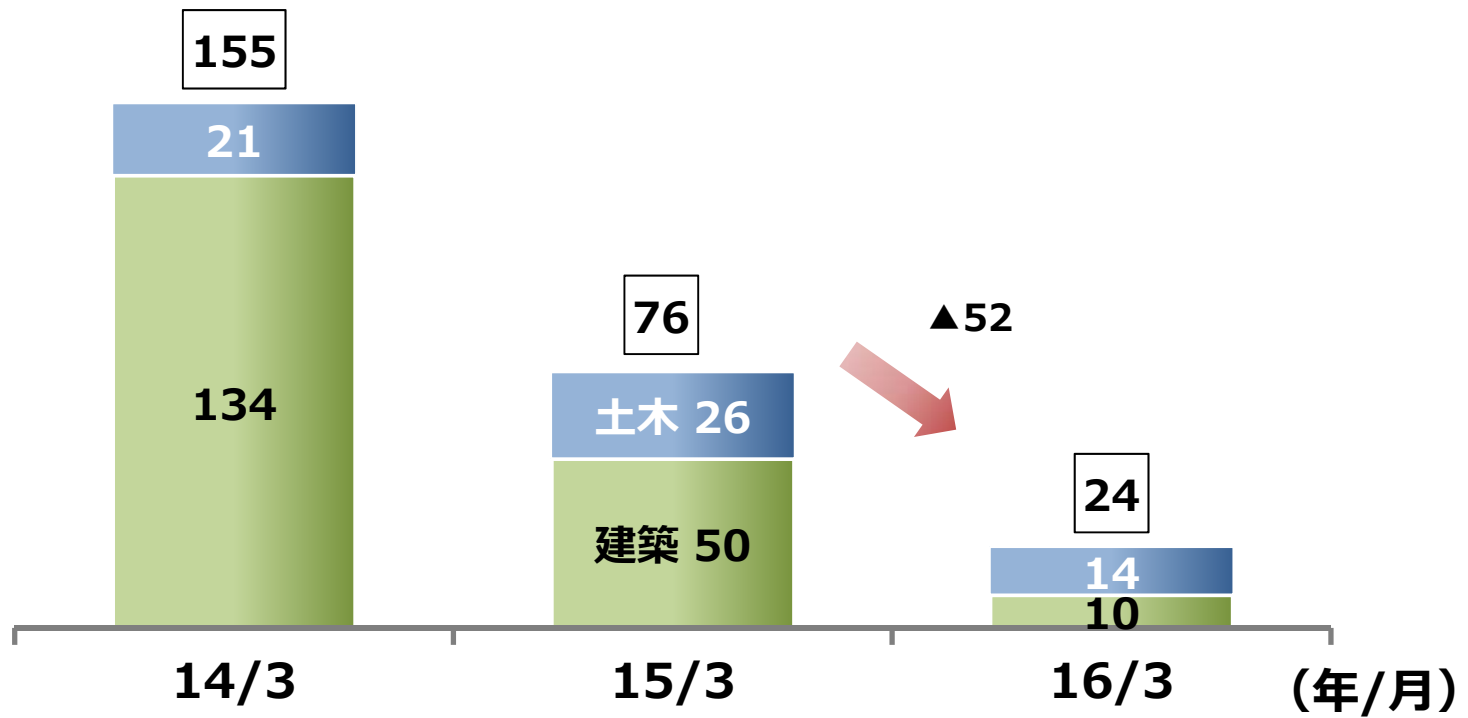
(単位：億円)



# 【連結】工事損失引当金の推移

■ 建築 ■ 土木

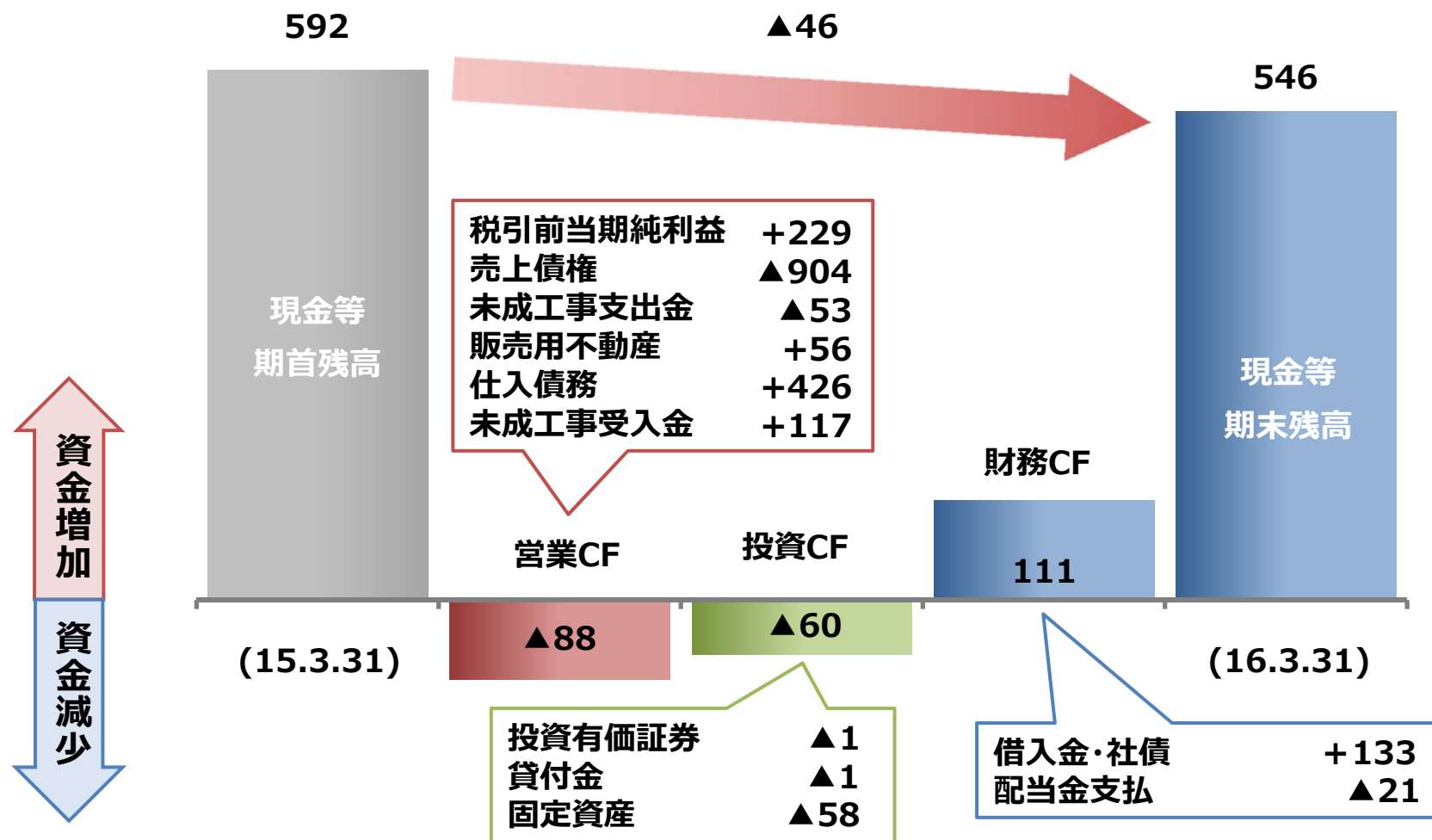
(単位：億円)





# 【連結】キャッシュ・フロー

(単位：億円)



# 1-3. 業績予測



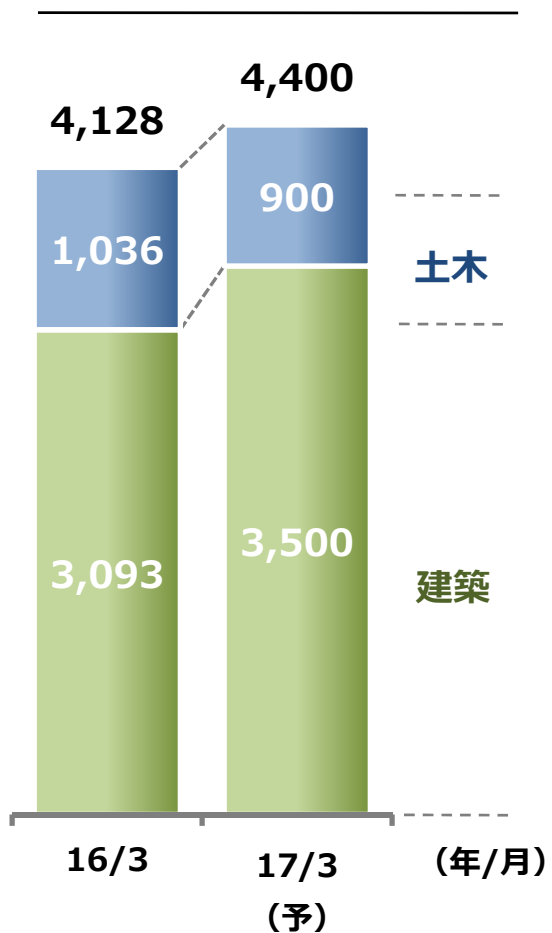
# 2017年3月期 決算予測

単位：億円	2016/3期	2017/3期		
		予 測	前期との差	
連結売上高	4,926	4,450	▲9.7%	▲476
営業利益	216	185	▲14.5%	▲31
経常利益	237	203	▲14.4%	▲34
親会社株主に帰属する 当期純損益	200	173	▲13.7%	▲27
建設受注高 (個別)	4,128	4,400	+6.6%	+271

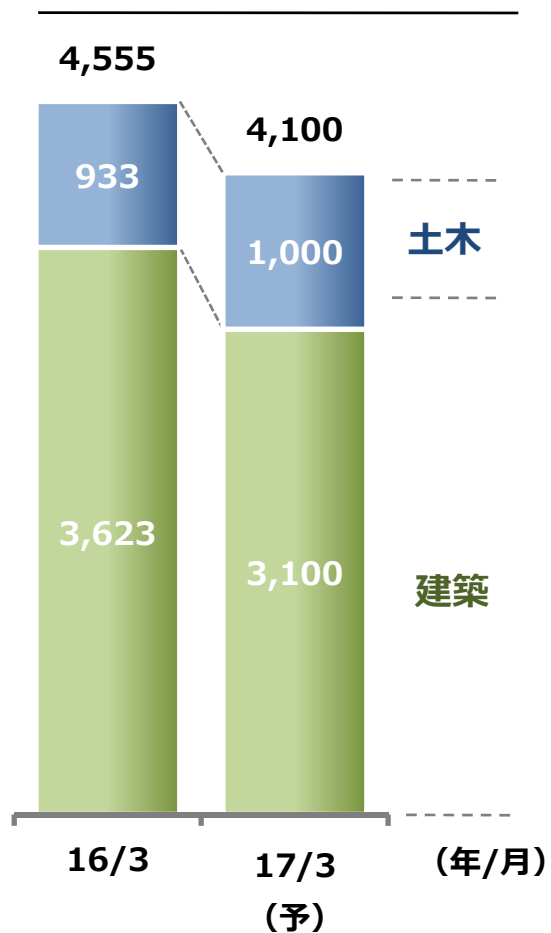
# 【個別】建設事業の業績予測

(単位：億円)

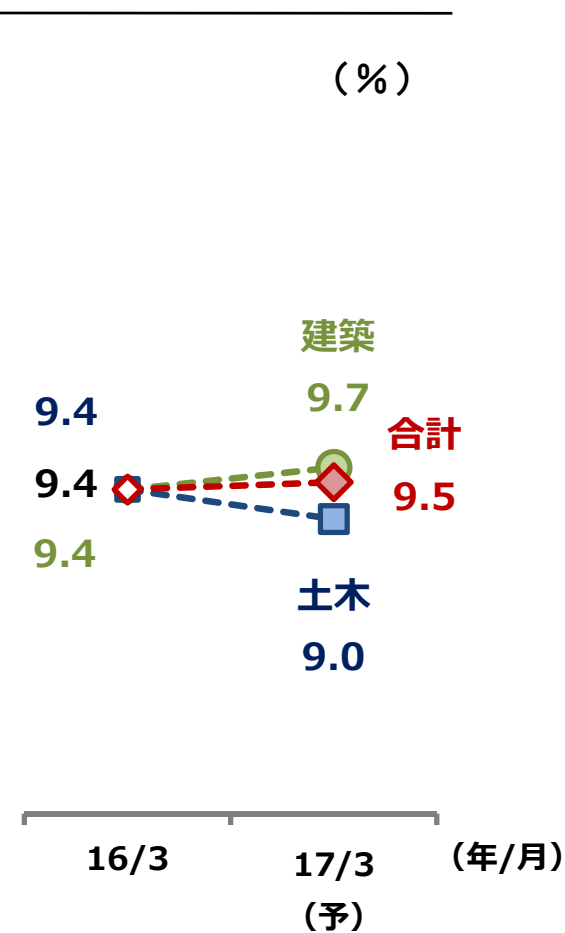
## 建設受注高



## 完成工事高



## 完成工事利益率



## 2017年3月期 個別業績の予測

	金額 (億円)	利益率 (%)
売上高	4,145	
売上総利益	405	9.8
建設事業 利益	390	9.5
(建築)	(300)	(9.7)
(土木)	(90)	(9.0)
不動産事業等 利益	15	33.3
一般管理費	235	
営業利益	170	4.1
経常利益	187	4.5
特別損益	0	
当期純利益	162	3.9

## 2. 経営計画の進捗状況

---

代表取締役社長 今井 雅則

# 中期経営計画2017のフォーカス

( 2015年度 ~ 2017年度 )

## － 既成概念の破壊と新価値・システムの創造 －


### 生産性No.1

ゼネコン業界トップの高い  
生産性の確立

### 成長への基盤

事業領域の拡大と建設との  
シナジーの追求

## 2-1. 2015年度総括





# 中期目標の前倒し達成

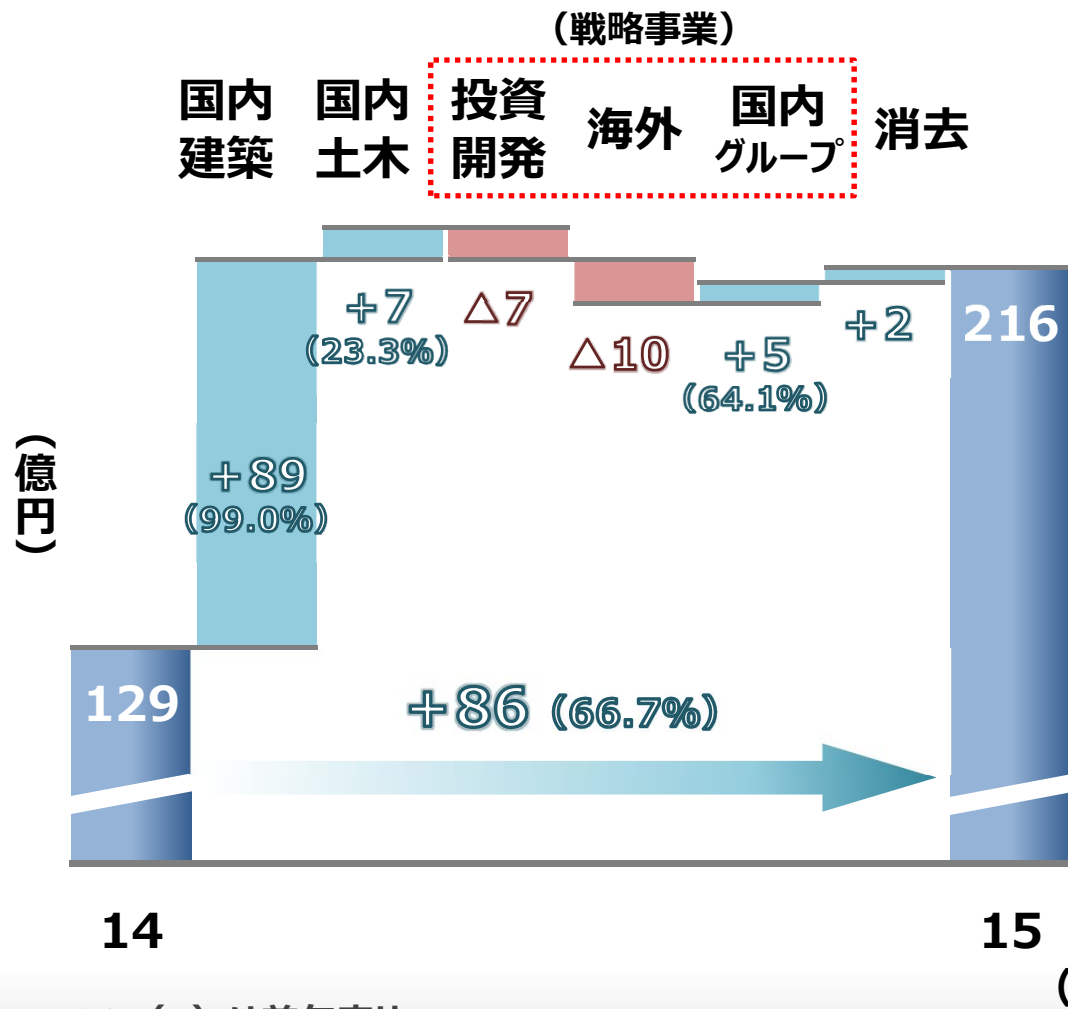
## 収益性・生産性ともに、2015年度に目標達成

	14年度 実績	15年度 実績	17年度 目標 (当初目標)
連結売上高	4,203 億円	4,926	4,800
営業利益 (営業利益率)	129 億円 (3.1%)	216 (4.4%)	170 (3.5%)
労働生産性	1,154 万円	1,455	1,300

※ 労働生産性 = 付加価値額 (営業利益 + 総額人件費) ÷ 社員数 (期中平均、派遣社員等を含む)

# 事業別 営業利益増減

## 国内建築事業の増益が牽引



### 国内建築

- 大型工事の完成による売上高の増加
- 原価低減による粗利益率の改善

### 投資開発

- 資産整理に伴う不動産評価損の計上

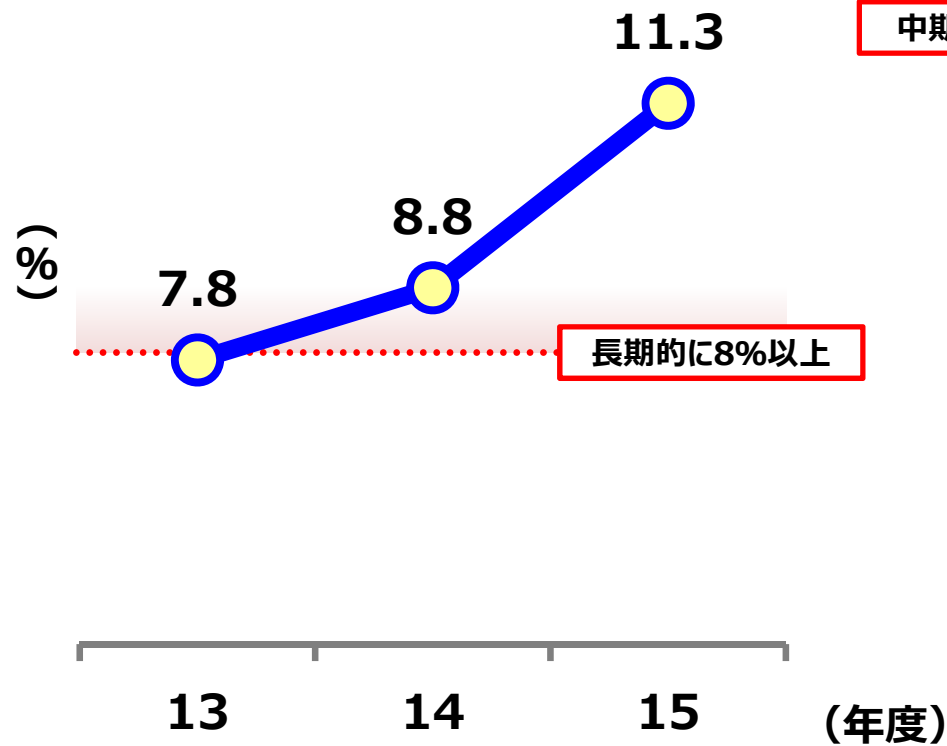
### 海外

- 新興国の成長鈍化等による採算悪化

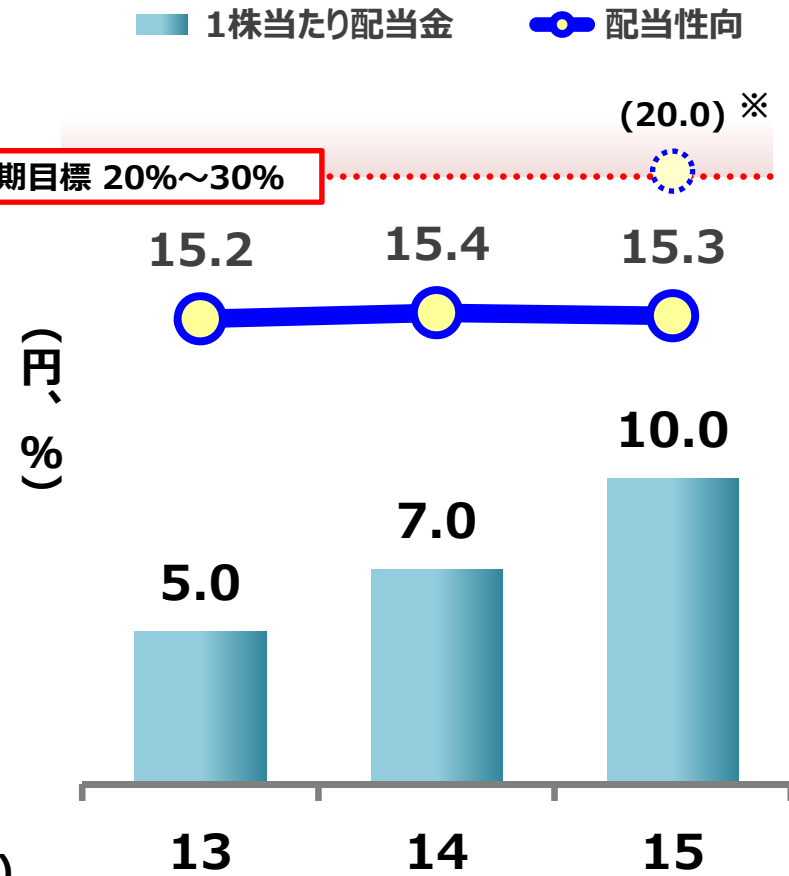
※ ( ) は前年度比

# 資本効率・株主還元

## ROE（自己資本利益率）

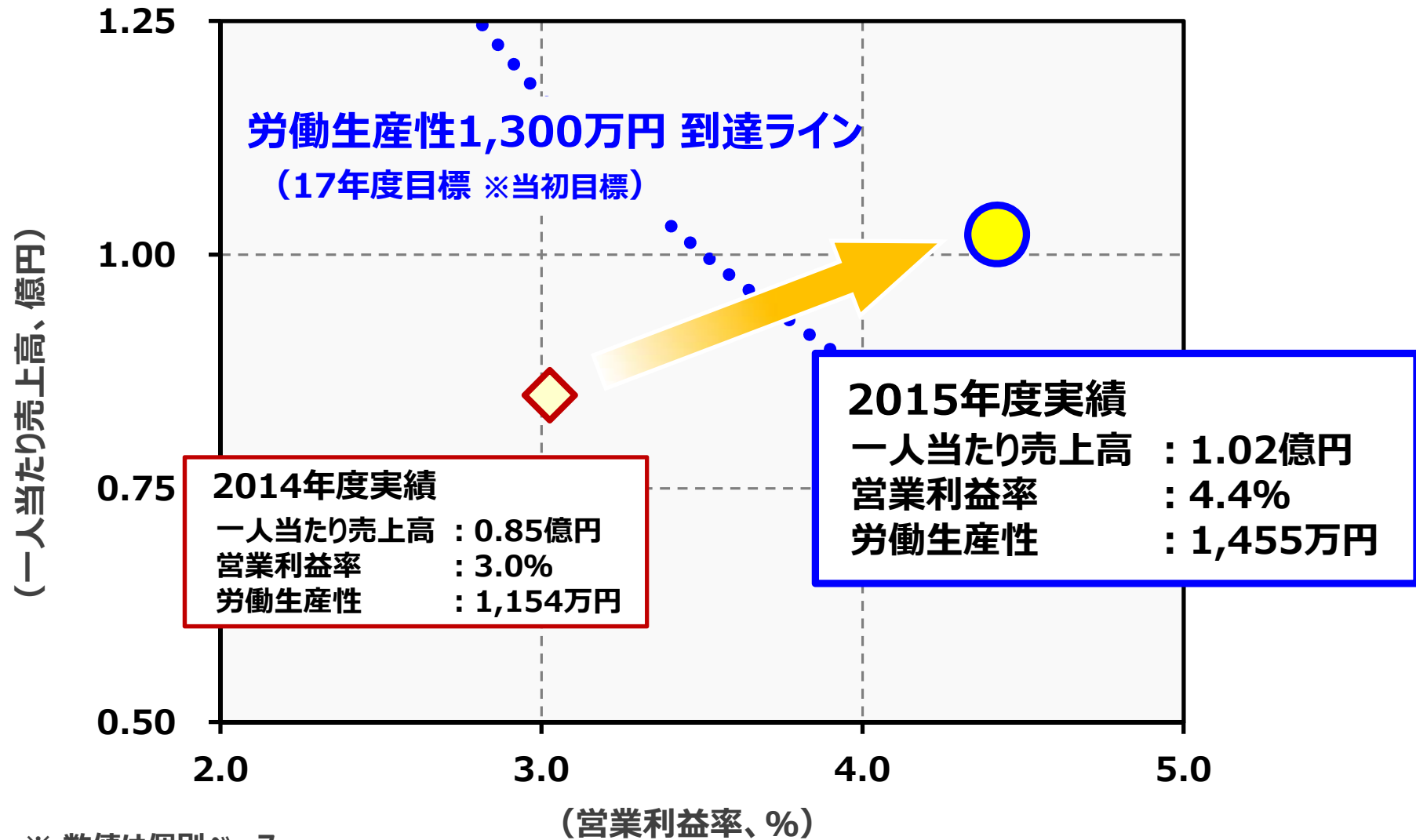


## 1株当たり配当金・配当性向



※  $\frac{\text{配当総額}}{\text{税金等調整前当期純利益} \times (1 - \text{法定実効税率})}$

# 生産性の取り組み



※ 数値は個別ベース

※ 労働生産性 = 営業利益/人 (売上高/人 × 営業利益率) + 総額人件費/人

# 成果と課題

	業績面	施策面
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>• 収益の改善</li><li>• 中期目標の前倒し達成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 付加価値向上への取り組み進展</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 戦略事業の収益化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 一人当たり売上高（消化能力・業務スピード）の向上</li></ul>

**生産性“No.1”に向けた取り組みの更なる強化  
（目標再設定による施策の継続推進）**

## 2-2. 中期的な方向性



# 経営の考え方

## 持続的に成長する企業

### 生産性の持続的向上

(生産システム・業務プロセスの改革、ICT再構築、機械化施工 等)

### 人財の再配置・最適化

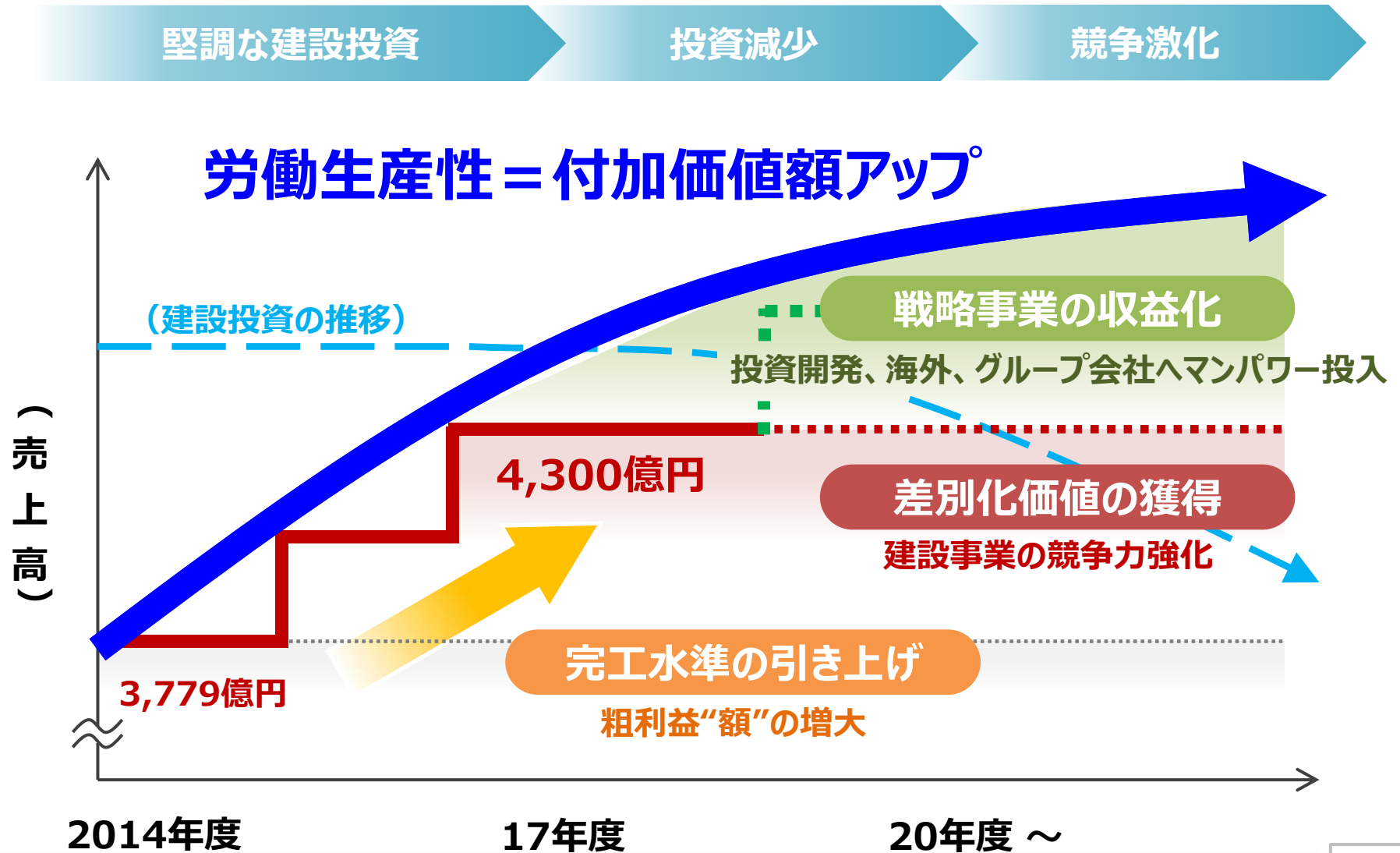
差別化価値の獲得

戦略事業の収益化

### 適正利益の確保と配分

(ステークホルダーの“喜び”の実現、社会の発展への貢献)

# 持続的成長へのプロセス





## 達成すべき指標 (2020年度以降)

連結売上高

5,000 億円程度

営業利益率

4.5 %以上

労働生産性

1,400 万円以上

※ 労働生産性は個別ベース

## 中期目標（修正目標）

単位：億円

	15年度 実績	16年度 予測	17年度 修正目標	17年度 当初目標
<b>連結売上高</b>	<b>4,926</b>	<b>4,450</b>	<b>4,800</b>	<b>4,800</b>
国内建築	3,614	3,090	3,300	3,300
国内土木	920	980	1,000	975
投資開発	79	45	50	50
海外	138	148	200	250
国内グループ会社	345	340	400	400
連結消去	▲172	▲153	▲150	▲175
<b>営業利益</b>	<b>216</b>	<b>185</b>	<b>200</b>	<b>170</b>
<b>営業利益率</b>	<b>4.4%</b>	<b>4.2%</b>	<b>4.2%</b>	<b>3.5%</b>
<b>労働生産性</b> 個別、単位：万円	<b>1,455</b>	<b>1,300</b>	<b>1,320</b>	<b>1,300</b>

# 事業別 営業利益目標

単位：億円

	15年度 実績	16年度 予測	17年度 修正目標	17年度 当初目標
<b>営業利益</b>	<b>216</b>	<b>185</b>	<b>200</b>	<b>170</b>
国内建築	179	140	140	115
国内土木	37	40	45	36
投資開発	▲0	1	2	5
海外	▲13	▲7	5	7
国内グループ会社	14	11	8	7
連結消去	▲0	-	-	-

## 2-3. 2016年度の重点施策



# 生産システム改革・業務改革

## 生産性の高い業務推進体制を構築

### フロントローディングの推進

(BIM・CIMの活用)



設備統合モデル



施工モデル



3Dパース

※ BIM : Building Information Modeling  
CIM : Construction Information Modeling

### 業務プロセスの再構築

(業務改革活動)



約25%

削減時間効果  
(2015年度改善提案)

2014年度～

2016年度

業務改革活動

ICT再構築

標準化・省力化

新戦力の創出

※ 2015年度活動（2015年2月～2016年1月）は  
関東支店を中心に実施

# 技術開発

無人化・自動化施工システム ※既往技術のブラッシュアップイメージ

戸田式自動化施工システム  
～ルーフロボ～



## Robot File

### 自社開発ロボット一覧表

ロボットの持つ作業の高品質、安全性、高能率性を活かし、戸田建設は、社会に、地球環境に貢献します。

テムリス煙突解体



複合版用ボード分別機  
TO-BOSS E



環境

耐震補強用  
アンカー穿孔小型機



自動鉄骨建入れ調整システム  
TO-Plumb Navi



メンテナンス

アンカー穿孔大型  
ロボット



耐震補強用  
鉄板取付けロボット



地下部搬送システム



自動吹き付けロボット  
TN-ふっ君



仕上げ

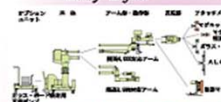
CW取り付けロボット  
TO-Auto FX



NEOカッター工法



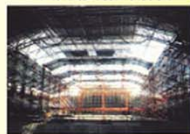
モジュールロボット  
Easy-Lifter



A L C 取付け機



3次元移動式構台



躯体

鉄筋ユニット  
取り付け機



大型型枠ユニット  
取り付け機



自動仕上搬送システム  
TO-CARRY



ガラス取付けロボット



自昇降式足場 TO-ALIS



仮設

全天候型仮設屋根  
Sky-roof

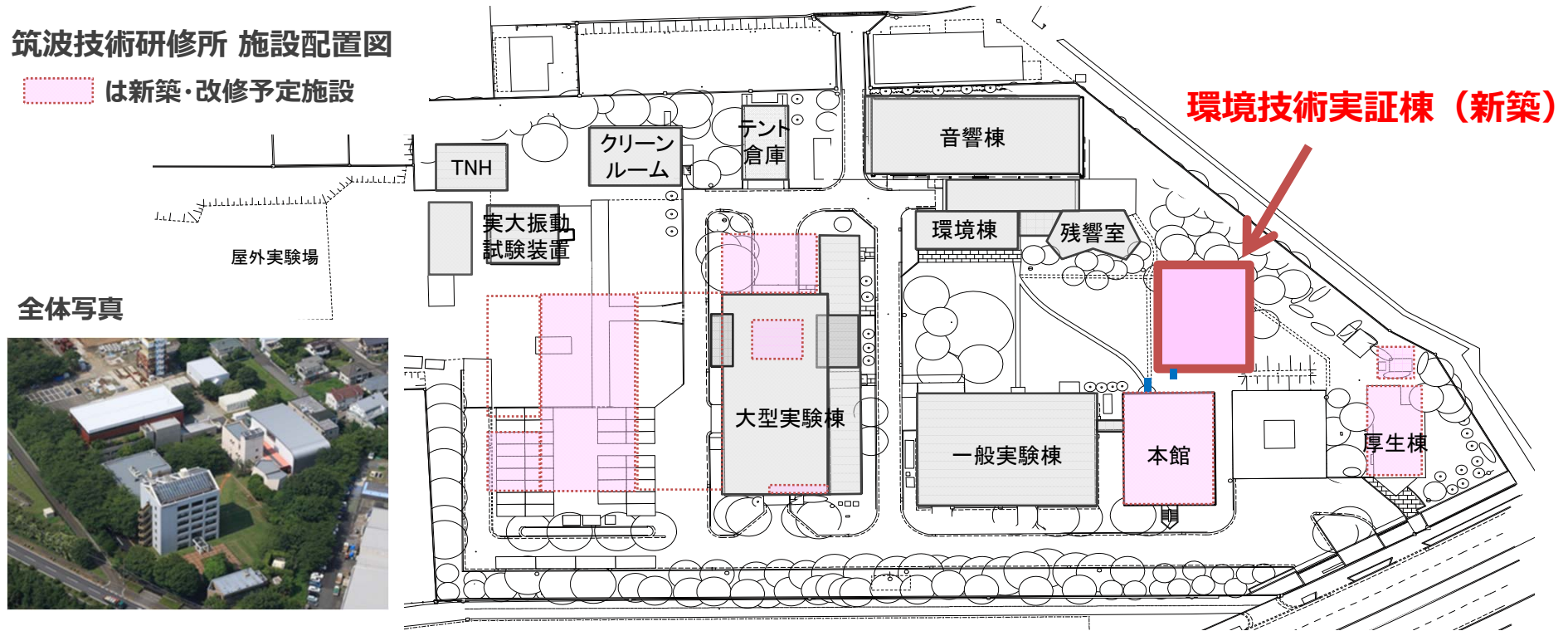


TODA CORPORATION

# 技術研究所 施設整備

## 筑波技術研修所 施設配置図

は新築・改修予定施設



## 全体写真



## (仮称) 環境技術実証棟

新本社ビル（京橋一丁目東地区再開発B街区）に導入する環境関連技術を実証。  
将来的にはカーボンマイナスを目指す施設に改修予定。

工期：2016年5月～2017年3月

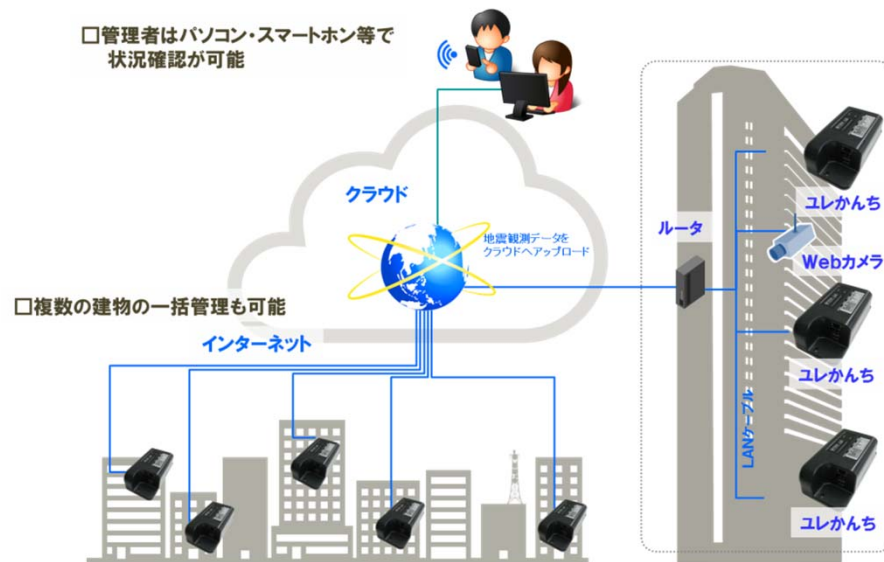
※一部インフラ工事は5月まで

# 異業種との協業

## パートナーとともに社会の発展へ貢献

### 建物設備・維持管理の技術開発

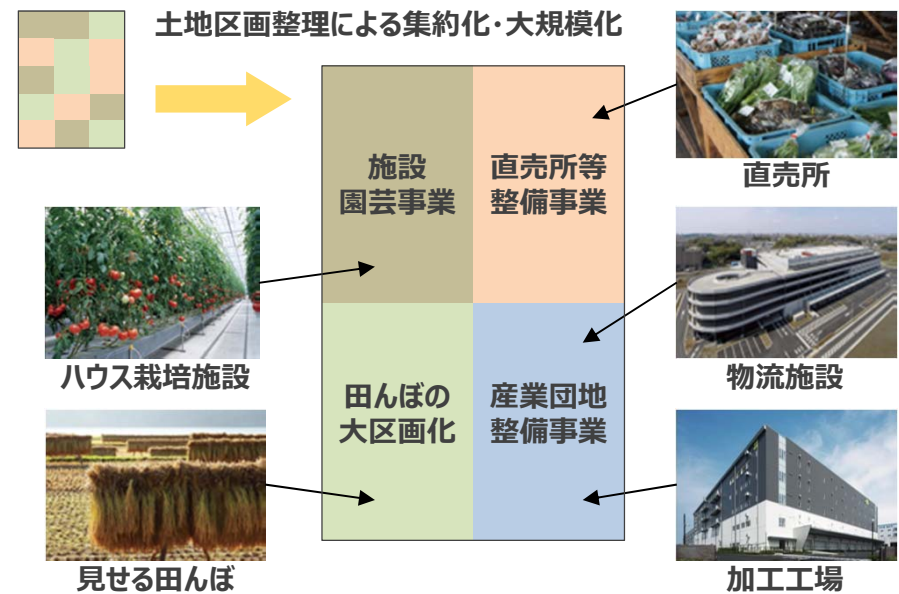
(ビルメディカルシステム「ユレかんち」)



※ 村田製作所製・加速度センサを採用

### 地域づくりへの取り組み

(農業6次産業化・茨城県常総市にて推進)



※ 当社は事業協力者として参画



# 投資開発事業の推進

## 将来収益に向けた取り組みを進展

### 京橋一丁目東地区再開発



先行街区（A・C街区）の解体工事に着手。新しい街づくりへの協議の実施。

### 浮体式洋上風力発電事業



発電設備を実用化。発電データの収集とともに運転維持管理の知見を蓄積。

# 最後に：2016年度の位置付け

## 強固な収益体制を確立し、新たな成長のステージへ



“喜び”を実現する企業グループ

